

## 私の職業奉仕物語

旧上山競馬場跡地とその周辺地域はちょっとした産業団地となり、大企業から私の会社のような小規模な事業所までいくつかの企業が立地している。企業規模のみならず業態も様々である。数年前に産業団地内で製造業を営まれている社長さんから、各社の社屋の周辺での清掃奉仕活動のお誘いを受けた。現在では立地企業が一齐に毎月第3水曜日の朝に、割り振られたエリアごとにゴミ拾い程度の清掃活動を行っている。

当日、私は社員の出勤前に45リットルの比較的大きなビニール袋と発起人の社長さん自家製のごみバサミを携えて清掃作業に入る。この特製ごみバサミは、実によくできた代物だ。空き缶やペットボトルを拾い上げることを容易にしている。ステンレス製でハサミの一片がそれぞれ先端から半円状にくびれていて缶やペットボトルを輪になって挟んでくれる。挟んだまま、中に入っている飲料の残りや水を抜いてやることも簡単だ。ごみ拾いを進めていくと、たばこの吸い殻が目につく。コンビニ弁当の空き箱がビニール袋ごと捨てられていることもある。競馬のハズレ馬券と緑色のペンシルはうちのお客さんが捨てたものだ。これはうちの会社の責任だ。言い訳はできない。

私のエリアは片歩道の道路で歩道のない西側となっている。山形上山間の通勤路となっているので、車の往来は結構多い。道幅が広くないことから、側溝の蓋の上を歩きながら交通事故に注意して作業をしている。それでも私の脇を車が通過するときには減速していく。運転者の中には通勤途中の時間的余裕の無い中で迷惑そうな顔をして通り過ぎる人もいるだろう。大きなビニール袋とごみバサミを持っているから、車の運転をしても何をしているか直ぐわかるはずだ。ボランティア活動をしているのだから鷹揚にみてくれよ、という気持ちでいる。さらには清掃活動を見てもらうことで、皆さんもどこかで同じような活動に参加してくださいね、と訴えたい。少なくともここにはゴミを捨てないでね、との思いは伝わると思う。そう言えば、以前から比べるとごみの量は結構減っている。

こうしてごみ拾いを進めいくと、発起人の社長さんがやってきて声を掛けてくれる。写真を撮ってもらって、後日、実績報告としてチラシ風に編集していただき、メールで送っていただいている。お陰でご近所の会社で働いている人の顔が見えるようになった。月に1回の活動とは言え、メンバーへの連絡、報告まで行ってくれる社長さんには感謝と敬意でいっぱいだ。何よりも産業団地全体の行事として取り組むようになったのは社長さんのリーダーシップのおかげだ。

多くのコミュニティーが衰退している折に、ご近所同士のコミュニティーに参加することは、負担よりも参加する喜びの方が大きい。月1回の活動を自主的に増やしてもいい。その時は上山ロータリークラブのジャンパーを着て活動するつもりだ。